

# 印旛普及だより

第 34 号

〒285-0026 佐倉市鶴木仲田町8-1 TEL : 043-483-1124 FAX : 043-485-9502  
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-inba/inba/mokuji/index.html>  
発行：印旛農業事務所改良普及課・印旛地域農林業振興普及協議会

## 地域農業を担う新たな組織誕生！

### 「いんばGarinet(印旛女性農業者の会)」

ガーネット

女性農業者には、農業の担い手として、主体的な農業経営や社会参画による能力の発揮が期待されています。

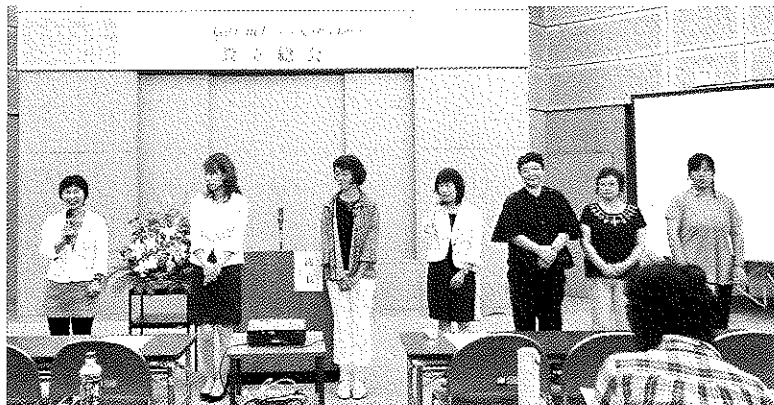
#### 新たな組織が誕生

幅広い世代で学べ交流できる新組織「いんばGarinet(印旛女性農業者の会)」(会員数63名)が、平成28年8月に発足しました。これまで独自に活動してきた女性農業者組織と若手女性組織が準備会を重ねて設立しました。

#### 活動の目標と内容

会の活動目標は、「印旛地域の女性農業者が広く交流することで、個々の経営向上や女性が

活動しやすい地域づくりに取り組み、「元気で逞たくましい印旛農業」を実践する」としています。



設立総会で自己紹介する役員の皆さん

今年度は「我が家の後継者育成を考える講演会」や「農作業を快適にするための工夫」などの研修会や情報交換を行っています。



研修会で作業帽子の工夫の情報交換と実習を行いました

#### 参加をお持ちしています

農業事務所では、女性農業者の幅広い世代が参加できる組織活動を支援しています。興味のある方は、改良普及課へぜひお問い合わせください。

# ◆特集◆

## 「GAP」について 知ろう！

### 1 GAPとは

GAPとは英語の「Goodグッド、Agriculturalアグリカルチュラル、Practiceプラクティス」の略称で、日本語では、「農業生産工程管理」といいます。

GAPは、農場にとってリスクにつながる気をつけるべきポイントを「食品安全」、「環境保全」、「労働安全」の視点でチェックし農場を改善する取り組みです。

### 2 GAP導入の効果

GAPの導入は①農産物の安全性向上（農産物への異物混入や病原性微生物による汚染予防、農産物の農薬残留等リスク予防）②環境保全へのリスク低減

（農薬や過剰施肥による環境負荷）③農業者の安全確保（農業機械の整備不良や操作ミスによる事故の防止）につながります。このことで、農産物の競争力の強化、品質の向上、農業経営の改善や効率化に役立つとともに、消費者・実需者の信頼が得られます。

### 3 GAPの種類

運営主体により、①「グローバルGAP」②「ASIAGAP」③「JGAP」④「適正農業規範／農産物品質保証システム」④「JAGグループのGAP」そして⑤「各都道府県GAP」があります。

一方で、GAP基準が運営主体で異なり、農業者や産地の負担が懸念されることから、国は「農業生産工程管理（GAP）の共通基盤に関するガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）を策定しました。

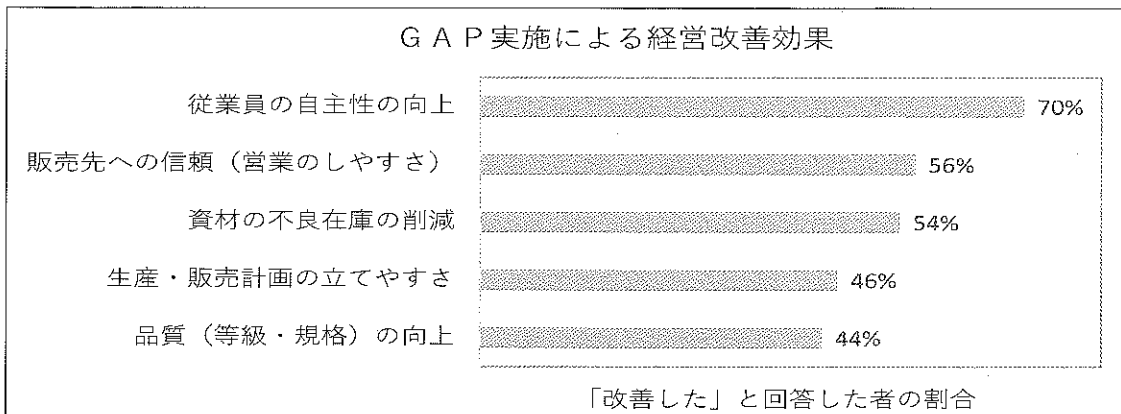
県では、東京オリンピック・パラリンピックに千葉県産の農産物を供給していくため、また、国際的な動向に対応していくために、ガイドラインに準拠した千葉県版GAP「ちばGAP」を、平成30年2月から運用する準備を進めています。

### 4 GAPの実際

農薬や肥料の使用と管理、土壌の管理、危険な作業の把握など次のステップで取り組みましょう。

- ①農場がどのような状態かチェック項目をもとに点検する。
- ②「改善」が必要な部分を見つける。
- ③「改善」として続けられる対策を考える。
- ④働く全員で実践する。
- ⑤必要なものは記録に残す。

GAP実施による経営改善効果



出典：「GAP導入による経営改善効果に関するアンケート調査結果」（H25.1（独）農業・食品産業技術総合研究機構）を基に農林水産省生産局農業環境対策課で作成

## 5 GAPによる農作業 事故の防止

全国でみると、平成27年度の農業就業人口は40年前と比べて4分の1に減少し、65歳以上の高齢者の比率は全体の21%から64%と約3倍に増加しています。千葉県内では、毎年10件以上の農作業死亡事故が発生しており、うち農業機械による事故が半分以上を占めています。

産業別にも、農業は他産業と比べて死亡事故者数が多いことが特徴です。

例えば、就業者1万人当たりの死亡事故者数は、かつて農業に比べて建設業が16倍多く発生していましたが、現在では、農業が2倍多く発生しています。

農作業事故が減らない要因は、農業従事者の高齢化が進んでいることに加え、作業内容が気象状況に左右され、気持ちの焦りを生みやすいことがあげられます。

す。

農作業機械を安全に使うため「定期的にメンテナンスをする」「無理な使い方をしない」「ほ場の危険箇所を目立つように表示する」など農作業中に起こり得る危険を予め知り、安全確認のポイントをチェックするGAPの取組は農作業事故防止にも有効です。

## 6 事例紹介

実際にGAPを取り入れた農業者からは、記録を取るようになったことで出荷情報が正確に把握でき、販売先からの信頼が厚くなったとの声がありました。

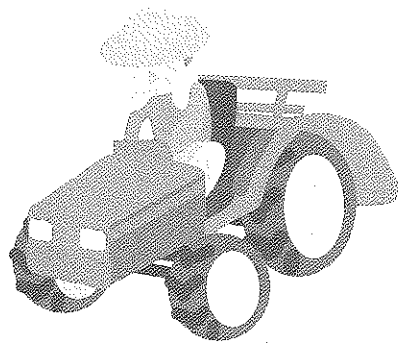
また、GAP導入までに様々な書類を用意する必要があったが、量販店との契約推進や信用力向上などのメリットによって他の農業者と差別化することができたとの声もありました。

2020年東京オリンピック・パラリンピックをきっかけ

にGAPの取組を求める動きがあります。農場のリスクを減らすために、GAPを実践していくことが農業者自身を守ることにつながります。



整理整頓され、在庫状況がわかりやすく、安全に保管された農機



## 農地の出し手を 募集中です

担い手に貸し付ける農地を探しています。

貸し付けたい農地がある場合は、左記にお問い合わせください。

新たな農地の貸借制度により、(公社)千葉県園芸協会が農地の貸し借りをを行います。

詳細は、印旛農業事務所企画振興課(電話043-483-1129)または(公社)千葉県園芸協会農地部(電話043-223-3011)までお問い合わせください。

※(公社)千葉県園芸協会は、千葉県から農地中間管理機構に指定されています。

# ◆ 担い手 ◆

## 印旛管内から千葉県 代表が選ばれました

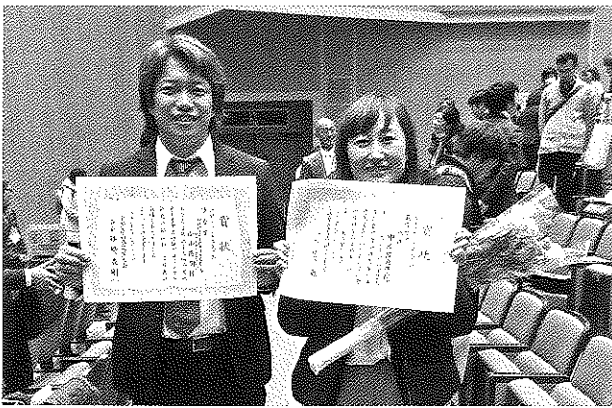
～関東ブロック農村青少年  
（4Hクラブ）プロジェクト実績発表会～

農業経営や農村生活等の改善について、研究実践している青年農業者が研鑽を積み、農業技術や経営能力を向上させることを目的に「関東ブロック農村青少年（4Hクラブ）プロジェクト実績発表会」が平成29年10月3～4日に茨城県水戸市で開催され、千葉県代表として八街市の小山直樹さん、中込麻衣子さんが発表します。

今年1月に開催された県青年農業者会議で、小山さんは自らが課題を設定し解決に向けての取組を発表する「プロジェクト発表の部」で「新しいことへの挑戦ラボ～強い農業者への道～」の題で優秀賞を受賞し、中

込さんは自らの体験を通じて日頃の考えを述べる「意見発表の部」で「八街の魅力発信に向けた私のチャレンジ！」の題で最優秀賞を受賞しました。それぞれ高い評価を得て県代表に推薦されました。

関東ブロックの発表会でも実力を発揮するとともに、他県の参加者との交流などで実りの多い経験となることを期待しています。



小山直樹さん 中込麻衣子さん

## いきいき帰農者等支援 セミナーを開催

農業の担い手が減少している中、若い後継者や新規参入者だけでなく、定年後や離職をして農業を始める方々も、地域農業を支える貴重な人材です。

印旛農業事務所では、そのような方々を対象に「いきいき帰農者等支援セミナー」を開催しています。

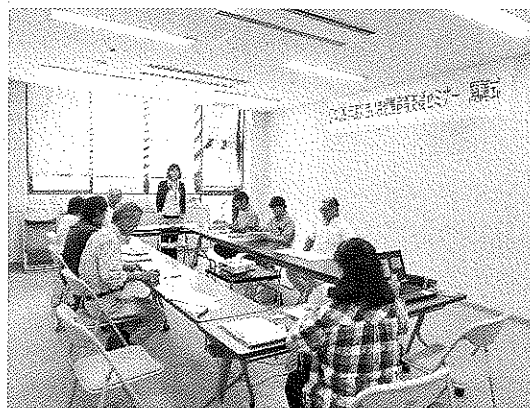
本年度は6月29日（木）に開講式及び、第1回目の研修会「野菜を中心に農業経営を始めるにあたって」を開催し、受講希望者13名のうち6名が参加しました。

その他にも、農業機械の安全使用、直売向け野菜の作り方など基本的かつ実用的な内容の研修会を年間8回ほど開催する予定です。

教室での講習の他に直売所や

種苗会社の視察、個別の営農相談等も行いながら売上100万円以上の経営ができる人材を育成していきます。

定年後に実家の農業を継ごうと思っている方など、基本的な知識を身に着けたい方は、改良普及課まで御相談ください。



開講式の様子

